

CTC未来財団

年次報告書

令和6年度（2024年度）／第7期



次世代のための財団



当財団は、明日を変えるITの可能性に挑み、持続可能な夢のある豊かな社会の実現に貢献する「次世代の育成支援」を目的として、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（略称「CTC」）が設立者となり、2019年10月1日に設立されました。2021年3月1日に公益認定を受け、公益財団法人として公益目的事業に取り組んでおります。

第7期は、公益目的事業である「児童・青少年に対するIT教育の支援事業」、「ITを志す青少年に対する修学支援事業」、「障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業」において、全国各地でのプログラミングワークショップの開催、講演者を招いての奨学生交流会の実施、障がいのある学生を支援する大学の職員の方を対象にした就労支援セミナーの初開催など、対面での活動を活発化することにより、多くの方々との交流が実現出来ました。また、活動を通じての情報収集や事例紹介、助成金給付先の研究結果報告を財団ホームページに公開し、広く情報発信を行うことで広報活動にも力を入れ取り組んでまいりました。

評議員・役員

代表理事	大塚 忠明	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 理事
理事	安藤 明伸	国立大学法人 宮城教育大学 名誉教授 広島工業大学 情報学部 情報システム学科 教授
理事	岸田 ひろ実	カウンセラー
評議員	竹内 薫	サイエンス作家
評議員	野村 晋右	野村総合法律事務所 弁護士
評議員	平山 伸一	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 常務執行役員
監事	田村 裕之	



寄附者一覧

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）の法人寄附は6社、計145,275,000円、個人寄附は45名、計1,197,000円、総額146,472,000円となりました。（敬称略）



法人

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	株式会社ゲットイット	CTC ひなり株式会社
日本ヒューレット・パッカード合同会社	リコージャパン株式会社	匿名希望 1社

個人

阿部 健太郎	伊藤 早紀	伊庭 勇治	今川 聖	奥井 亮佑	奥村 弘幸	菊地 哲
小寺 孝典	小林 伶	清水 明弥	下地 俊一	関 鎮	高橋 智幸	田上 俊輔
上神谷 彰克	平田 和人	平山 伸一	福澤 有太	松島 泰	松元 絹佳	松元 康洋
渡邊 香織	匿名希望 23名					

1

児童・青少年に対する IT教育の支援事業

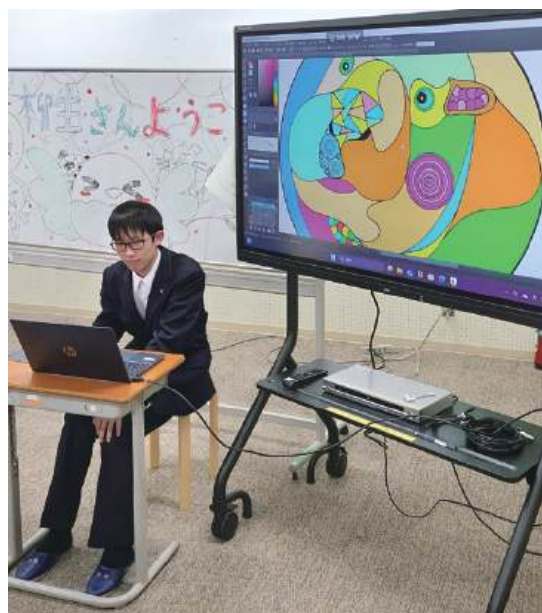
次世代を担う児童・青少年対象の事業です。プログラミング教材の無料貸出やプログラミングワークショップ、デジタルアートワークショップなどを企画・開催しています。



① IT 端末で創り出すデジタルアートワークショップ

プログラミングに限らず、情報技術の活用は多岐に渡ることを実感してもらい、新たな興味関心を引き起こす体験機会を創出することを目的に、デジタルアートワークショップを開催しています。学校に配備されたIT端末を活用し、デジタルに取り込んだ線画に色を塗って個性を表現します。デジタルを活用した自由な表現方法で生徒の創造力を引き出し、制作したデジタルアートを鑑賞しあうことで、お互いの作品のテーマや制作意図の違いの気づきを促します。2024年度は東京都立青鳥特別支援学校と千葉県南房総市立富山中学校で実施しました。

線画はルーラーアート作家の柳生千裕さんの作品を使います。柳生さんは兵庫県西宮市在住の高校2年生です。5歳の時に自閉症スペクトラム(ASD)と診断。9歳から創作活動を開始し、「見た人が楽しく元気になる」絵を目標に学業との両立を図りながら創作活動を行っています。東京都立青鳥特別支援学校では講師としてワークショップに参加していただき、同世代の生徒達と交流しました。



講師の柳生千裕さんも一緒に作品づくりをしながら
彩色方法をレクチャー



生徒の作品



タブレット端末で細かい線画を拡大して
着色する生徒

② 論理的思考とチームワークを育む 教材貸出事業



みんなチャレを使った授業の様子

毎日新聞社主催の「学びのフェス」にみんなチャレを使ったプログラミングワークショップを出展しました。参加した小学1、2年生が、色を読み取ることができるセンサー内蔵のトラックロボットを使い、3か所の配達先に荷物を届けるルートを作り出す配達ミッションに挑戦しました。



「学びのフェス春・夏」へのワークショップ出展



学びのフェス運営事務局
イーソリューション株式会社
市瀬 慎太郎 氏

CTC未来財団のプログラミング教室「カラーコードでプログラミング？」は学びのフェスでも大人気のコンテンツです。小学校でのプログラミング教育の必修化の前年2019年からプログラミング教室を開始しバージョンアップもされ、学びのフェスに参加している親子も何回も参加して頂いています。また、親子で参加する授業として、保護者も学べるコンテンツとして貴重な授業の一つです。今後も時代にあったプログラミング教室のコンテンツづくりに期待しております。



④ 論理的思考と情報科学を学ぶ カード教材の無償配布事業

一般社団法人情報オリンピック日本委員会（JCIOI）ジュニア部会と協働し制作した、小学1～4年生向け40枚と小学5～6年生向け28枚の「ビーバーチャレンジ学習カード」を1セットとして無償配布しています。2024年度は396セット、累計1,630セットを申込のあった小学校等の教育団体に配布しました。

福岡県飯塚市立立岩小学校では、カード版とPDF版を授業と朝の学習時間に利用しています。PDF版は児童一人ひとりが所有しているタブレット端末にデータを配布し、書き込みや拡大縮小が自由にできるPDFならではのメリットを存分に発揮し活用しています。



タブレット端末を使い児童同士で答え合わせ

③ ビジュアルプログラミングによる 創作意欲を育むワークショップ事業

Scratchを使ったオリジナルのクイズゲーム教材を使って集合対面型の児童向けプログラミングワークショップを7月鳥取県米子市、10月香川県丸亀市、11月群馬県みどり市、12月広島県尾道市の4拠点で実施しました。

参加した児童達は、主人公を自分の思う場所に動かすプログラミングや登場人物を増やして音を出すプログラミングに取り組みました。



タブレット端末を使ってプログラミングに挑戦



1枚のカードを囲みグループで問題に挑戦

2

ITを志す青少年に対する 修学支援事業

対象大学に修学している青少年に対する
返済不要の給付型奨学金です。

① 新規奨学生の採用

2024年度対象大学50校（国公立大37校、私立大13校）を選定し、ホームページに告知掲載、大学を通して新規奨学生を募集し、選考委員会を経て新規奨学生20名を理事会決定しました。返済不要の給付金として月額6万円（最長4年間、3年次編入者は2年間）を支給しました。

② 奨学生交流会の実施

2024年度は、対面（オンライン併用）での交流会を2024年8月と11月の2回開催を計画し、49名の奨学生及び11名の卒業生に案内をしました。

8月の交流会は、2024年度の新奨学生と既奨学生及び財団事務局との交流を目的に開催し、33名の奨学生と4名の卒業生が参加しました。既奨学生が企画及び司会進行し、ゲームなどを実施して交流を深めました。

また、11月の交流会は奨学生の育成を目的に2つの講演を行いました。1つ目の講演はCTCの協力を得て、CTC Americaとオンラインで接続し、現地から「シリコンバレーの最新情報」を紹介、2つ目の講演は誰かのことを思いやり適切な理解のもとに行動する「ユニバーサルマナー」の講演を実施し、32名の奨学生と3名の卒業生が参加しました。



講演に聞き入る奨学生



奨学生と卒業生含め参加者全員で記念撮影

— 参加された方々 —



奨学生交流会で講演した
岸田 ひろ実理事

未来は今よりずっと良くなる

車いすユーザーである私自身や私の家族のこと、また自分とは違う誰かの視点に立って行動するユニバーサルマナーについて講演をさせていただきました。熱心に聴いてくださる表情がとても印象的でした。

講演後には海外の事例や大学で専攻していることに関するご質問をいただき、自分事として受け取っていただけたことを感じて大変嬉しく思いました。未来は今よりずっと良くなる、そんなことを感じさせていただけた素晴らしい機会でした。

自由に学問に挑戦

私は現在、証券会社のシステム開発の仕事をしています。金融、ITという2つの分野にまたがる仕事に出会えたのは、学生時代、幅広い分野に興味を持ち、学びを深めたからでした。財団に支えられ、経済的にも安心感があったからこそ、自由に学問に挑戦できたのだと思います。そこで得た知識、経験は今の仕事にも大いに役立っています。



青山学院大学 2023年度卒業
杉崎 亮さん



九州大学4年 奨学生
浅島 美希さん

交友関係が広がる貴重な経験

財団が開催する奨学生交流会で学生コミュニケーション企画を担当させていただきました。学生企画の担当は、私自身の視野と交友関係が広がる貴重な経験でした。普段関わることのない人たちと繋がることができ、様々な話を共有できるようになったことが嬉しいです。ご支援だけでなく、素敵な機会をご用意いただき、ありがとうございます。

クリエイター育成プロジェクトに採択

大学でCGの研究をしながら、チームでゲーム開発をしています（チーム名：達観する電子工房）。奨学金のご支援のお陰でアルバイトをせず学業や活動に専念することができ、文化庁のクリエイター育成プロジェクトのTGCAに採択されました。奨学生交流会ではCTCの社員の方などから実務面でのお話が聞けたり、他大学の方と繋がれたりしたことが有意義でした。



早稲田大学4年 奨学生

3

障がいのある青少年に対する
修学及び就労機会創出の支援事業

障がいのある青少年の修学及び就労機会創出に必要な情報技術（IT）を活用した各種対応に取り組む大学、高等専門学校、高等学校、専修学校、各種学校に対して助成金支援を行うものです。2024年度はIT機器等の購入や研究・開発に取り組む、以下26大学等へ助成金を給付しました。助成総額は、19,645,313円でした。

以下、障がい表記については各団体の表記を使用



2024年度助成事業 備品・アプリケーション購入・設備

団体名	助成対象
岐阜県立岐阜聾学校	補聴援助システム「ロジャー」一式
国立大学法人弘前大学 教育推進機構学生特別支援室	タブレット端末、ノートパソコン、デジタル耳せん、ノイズキャンセリングヘッドホン、周辺機器等
学校法人日本福祉大学 学生支援センター	会話視覚化サービス「VUEVO」（音声認識マイク、専用アプリ）
学校法人京都橘学園 京都橘大学 サポートリンクス（障害学生支援室）	可搬型スロープ
学校法人フェリス女学院 フェリス女学院大学 バリアフリー推進室	補聴援助システム「ロジャー」一式、ノートパソコン
学校法人大谷学園 大阪大谷大学 障がい学生支援室＜アクセスルーム＞	補聴援助システム「ロジャー」、タブレット、音響インターフェース機器等
学校法人専修大学 学生厚生部学生生活課 障がい学生支援室	立体イメージプリンター、災害・非常用階段避難車
学校法人國學院大学	拡大読書器、補聴援助システム「ロジャー」一式、ノイズキャンセリングイヤホン等
国立大学法人鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 学生支援センター	補聴援助システム「ロジャー」一式、ノートパソコン
学校法人金城学院 金城学院大学 学生サポートセンター	補聴援助システム「ロジャー」一式、タブレット
学校法人根津育英会武蔵学園 武蔵大学 ダイバーシティセンター	補聴援助システム「ロジャー」一式
国立大学法人九州工業大学 学生総合支援室	拡大読書器、補聴援助システム「ロジャー」一式
国立大学法人筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局	QD Laserスマートグラス、Apple Vision Pro
国立大学法人神戸大学 インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター 障害学生支援部門	補聴援助システム「ロジャー」一式、高遮音性イヤホン、動画編集・自動文字起こしアプリ
学校法人立命館 立命館アジア太平洋大学	カームダウンスペース
国立大学法人富山大学 教育・学生支援機構 学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室	ハイバックソファ、ハイバックチェア等

団体名	助成対象
国立大学法人愛媛大学 教育・学生支援機構 学生支援ユニット	コーディネートシステム、字幕自動生成アプリ「Vrew」、会話視覚化サービス「VUEVO」（音声認識マイク、専用アプリ）
学校法人駒澤大学	補聴援助システム「ロジャー」一式、音声認識・文字起こしソフトウェア「AmiVoice」、アクセスルーター等
学校法人立教学院 立教大学 しょうがい学生支援室	補聴援助システム「ロジャー」一式
学校法人玉手山学園 関西福祉科学大学 関西女子短期大学	補聴援助システム「ロジャー」一式、音声認識・文字起こしソフトウェア「UDトーク」
国立大学法人滋賀大学	コピーボード（電子黒板）
国立大学法人筑波大学 附属視覚特別支援学校	スタンドスキャナー、デスクトップパソコン、OCRソフト等
国立大学法人香川大学 創造工学部	いす式階段昇降機

2024年度助成事業 研究・開発

団体名	研究テーマ
国立大学法人千葉大学医学部附属病院	キャンパスにおける視覚障がい学生移動支援体制の全国展開モデル
国立大学法人宇都宮大学 障がい学生支援室	北欧および欧州（特にドイツ）における「障がい学生」の調査報告
国立大学法人鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 学生支援センター	LOVOT導入による障害学生の身体や行動の変容についての分析

2021-2023年度助成事業 研究・開発報告

2021.10-2024.3

視覚障害者に対する Web ページ理解支援に関する研究

学校法人早稲田大学 名誉教授 深澤 良彰



本研究手法のモデルアーキテクチャ

2023.10-2024.9

タイムリーで充実した情報が大学現場を変える：

聴覚障害学生支援のためのワンストップ型ナレッジベースの構築

国立大学法人筑波技術大学

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）

白澤 麻弓, 磯田 恭子, 中島 亜紀子, 萩原 彩子, 吉田 未来, 岡田 雄佑,

佐藤 さつき, 飯塚 真由美, 森脇 千賀子



「聴覚障害学生支援のためのナレッジベース」に新設した「Tips集」の画面

2023.10-2024.9

LaTeXによる理数系双方向コミュニケーションツールの開発

学校法人立教学院 立教大学 理学部数学科 教授 小森 靖



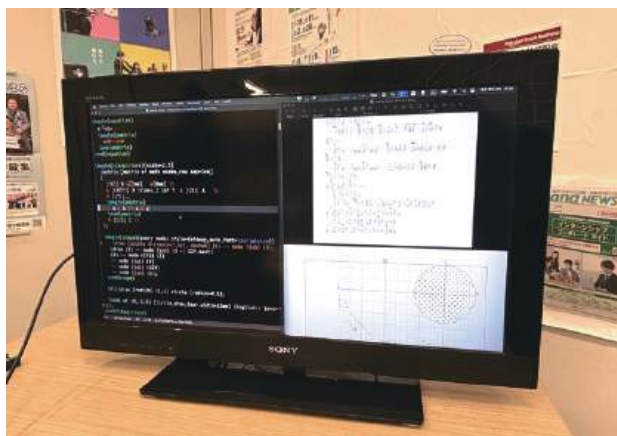
上記3団体の研究・開発の報告内容については
こちらのQRコードよりご参照ください。



研究・開発の事例

LaTeXによる理数系双方向コミュニケーションツールの開発

学校法人立教学院 立教大学



今回開発した理系テキスト点訳システムのアプリ画面

立教大学では、当財団の「障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業」の第6期（2023年度）助成金を利用して、理系テキスト点訳システム（LaTeXによる理数系双方向コミュニケーションツール）を開発しました。視覚しょうがい学生が理系学問を学ぶ上で最も大きな困難の一つが、数式と図を含む資料へのアプローチです。このシステムは、理系の資料作成の標準ソフトである LaTeX（ラテフ、ラテック）を使って文章や数式、図の自動点訳を可能にするものです。

数学や物理の授業では LaTeX で数式や図が入ったテキストを作成し、変換した PDF 資料を学生に配布します。以前はこの PDF 資料を点訳に出す必要がありましたが、このシステムにより、元の LaTeX ファイルを直接点字に変換できるようになって手間も時間もかからなくなりました。点訳ツールとしてだけではなく、学生と教員が双方向に数学的コミュニケーションを行うためのツールとして、視覚しょうがいのある学生の学修支援と教員の負担軽減などを含む諸課題の解決を目指しています。



立教大学 理学部数学科 教授
小森 靖氏

点訳における時間やコスト、業者の人手不足などの問題が視覚しょうがい学生から学ぶ機会を奪っています。意欲ある理系学生は自然科学という社会にとって重要な分野の発展に当然必要であって、視覚しょうがい学生においても進路や活躍の場を狭めることがあってはなりません。視覚しょうがい学生が理系学問を学ぶ上で、大きな困難とされていた数式や図を含む資料へのアプローチについては、今回開発したシステムでハードルをかなり下げることができたのではないかと思います。

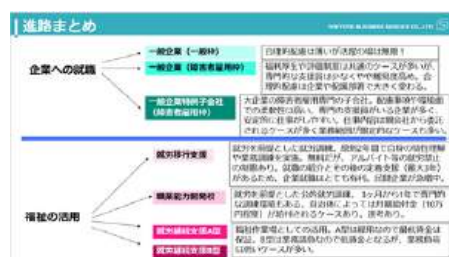
就労支援セミナーの実施

2024年12月に「就労支援セミナー ～障がいのある学生の社会での活躍に向けて～」を開催しました。就労支援に絞った初の取り組みとなる今回のセミナーは、障がいのある学生の就労を支援するため、支援を必要としている学生の就職活動時の課題を整理するとともに、企業の考えを学生支援のご担当をされている方に紹介いたしました。



講演「障害のある学生をとりまく現状と社会での活躍に向けて」

東京都ビジネスサービス株式会社 代表取締役社長 根津 史明氏



障害学生の社会に出るための進路

企業の障害者雇用への注目度は高まっており、社会で活躍する障害者の数も右肩上がりです。中でも精神障害者の雇用が顕著で、ここ数年の新規求職申込件数、就職件数とも身体障害者・知的障害者が横ばいなのに対して精神障害者はぐんと上がっています。

障害を持つ学生の就活において、企業が重視するのは「自己受容」です。自身の特性を理解しているか、どう配慮してもらいたいのか、どう克服していくのか。障害者雇用を希望する学生の相談には、もう一度自己分析することをアドバイスしていただきたいと思います。

講演「障害を持つ社員の活躍できるビジネス領域拡大の取り組み」

CTC ひなり株式会社 副社長執行役員 片板 弘礎氏



CTC ひなりの職域

CTCグループの特例子会社として、ITビジネス領域で精神障害者の雇用を強化し、一般事務、IT事務、ITクリエイティブ、ITエンジニアの4つの分野で人材採用を開始しました。システム開発や業務支援、デザイン、資料作成などの業務を通じて、社内外での評価を高めています。

障害者雇用においては企業のサポート体制不足や精神障害者への理解不足が指摘されています。弊社ではジョブサポーターが障害者の特性を把握し、業務の適正な配分を行います。障害者が自分の特性を理解し職場で適切な配慮を得ることが就労の成功につながります。



就労支援セミナーに参加した
国立大学法人宇都宮大学
障がい学生支援室 特任准教授
築田 美抄氏

今回の講演で障がいのある学生の就労に関する現状について客観的な情報と障がい者雇用企業の職域拡大や雇用の現状についてご紹介いただきました。障がい者雇用の長年の取り組み実績があるからこそその説得力のあるお話を聞くことができ、後々まで印象に残る学びの機会となりました。

また、本学は2024年度にCTC未来財団の研究助成を受けており、今後海外視察をさせていただく予定です。視察先で障がいのある学生たちの未来を応援する知見を得ることに努めたいと思っています。



公益財団法人 CTC未来財団

〒105-6909
東京都港区虎ノ門4-1-1
神谷町トラストタワー
mirai-zaidan.or.jp
office@mirai-zaidan.or.jp
03-6450-1540



寄附についてはこちらから

